

事業所名 グループホーム町屋
運営推進会議開催報告書

開催日時 2024年 2月 27日(火)

参加者	議題
利用者 0名	① 行事報告(1号館・2号館)
利用者家族 0名	② 行事予定
地域住民の代表者 1名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員 1名	④ 質疑応答
地域包括支援センター職員 1名	⑤ 次回開催日
事業所 2名	

会 議 録

①行事報告

◆クリスマス会

・クリスマス会を開催しました。昼食には、炊き込みピラフ、煮込みハンバーグ(カレーソース)、マカロニのトマトソース炒め、ミニチキン、ポテト、コーンスープを、また、おやつ時には、クリスマスケーキの提供をさせて頂きました。クリスマス会では、職員が扮するサンタクロース、トナカイからプレゼントをもらいとても楽しそうなお様子でした。(12月22日、1号館)

・クリスマス会を開催しました。昼食には、いなり寿司、フライ盛り合わせ、ミニチキン、ポテト、コーンスープを、また、おやつ時には、クリスマスケーキの提供をさせて頂きました。クリスマス会では、職員が扮するサンタクロース、トナカイからプレゼントをもらいとても楽しそうなお様子でした。(12月22日、2号館)

◆年越し

・昼食時に年越しそばを提供させて頂きました。年越しそばを皆様とても美味しくお召し上がり頂きました。(12月31日、1・2号館)

◆正月

・昼食におせち料理をお召し上がり頂きました。おせちを美味しそうに召し上がって頂きました。(1月1日、1・2号館)

◆初詣

・市内の神社まで個別で初詣に出掛けました。新しい1年の健康や家族の安全を祈念してきました。(1月12日、1号館・1月9日、2号館)

◆昼食作り

・昼食に寄せ鍋作りを行いました。利用者様方にもお手伝いして頂き、出来上がった鍋を昼食時に提供させて頂きました。鍋もおかわりをされ、めのうどんもとても美味しそうにお召し上がり頂きました。(1月29日、1号館・1月30日 2号館)

◆節分

・おやつ時に豆まきを行いました。利用者様方も、「鬼は外一。」と職員が扮する鬼に向かって豆を投げられとても楽しそうなお様子でした。豆まき後、各自恵方巻作りをしました。夕食時にご自分で作られた恵方巻を皆様美味しそうにお召し上がり頂きました。

◆誕生日会

・おやつ時に喫茶店まで外出しお祝いをさせて頂きました。喫茶店への外出に皆様、お喜び頂け楽しそうなお様子でした。(1号館 1月6日(1名)、2月8日(2名)、2号館 1月11日(1名)、1月25日(1名)、2月8日(1名))

② 行事予定

- ・3月 ひなまつり・誕生日会
- ・4月 花見

③身体拘束適正化検討委員会

「徘徊による身体拘束について」

◆徘徊の原因のアセスメントと対策

徘徊には原因や実際の目的がわかるものとそうでないものがあります。原因がわからないもの（周徊・常同的徘徊）は、山があるから登るように、廊下や空間があるから歩く。いわばその人の活動として徘徊していると考え、できるだけ安全に歩いてもらい、休憩を入れる事に配慮することが大切です。

原因や目的が考えられる時には、それらに対応して行くことが大切です。比較的理解しやすいのは、場所や状況がわからず迷子になったり、家族を探したり、食べ物を探している徘徊です。理解しにくいのが、不快感や、混乱、不安や焦りを抱えて徘徊している場合でしょう。いずれであっても、まずアセスメントをして、できるだけ利用者の状況を理解するようにし、不快や不安、混乱を軽減・緩和する働きかけをします。そうすることで利用者の落ち着きが得られ、徘徊の頻度や徘徊にともなう転倒などの危険性が低下します。

◆では問題症状の原因をどうアセスメントしたらよいでしょうか

1. 身体面からのアプローチ

まず、徘徊が身体的な疾患・症状から始まるケースも多くあります。認知症には徘徊はつきものと決めつけしないで、観察、診察し、病気など原因がわかればその対策を取ります。

また、治療するための薬剤によっては尿の量を増やしたり、不穏やせん妄を起こしたりする性質のものがあります。それらの使用をきっかけに落ち着かない、徘徊するなどの症状が始まったりしたなら、医師と相談します。

2. 心理面からのアプローチ

認知症の利用者も孤独や寂しさ、不安、屈辱、退屈などいろいろなことを感じています。それをうまく表現できなかったり、現実に行動するときに現実とミスマッチな言動になってしまう、そのひとつの表現が徘徊のこともあります。あいさつ、スキンシップや柔らかな声掛け、馴染

みの関係を作る、役割を持ってもらうなど、利用者を心理的に安定させる働きかけを行うことが大切です。また、ただ、正面から対応するだけでなく、利用者の気持ちの持ち方や行動パターンを利用して目先を変える試みも取り入れてみると成功することもあります。

3. 徘徊がスタッフにより提供されるサービスへの反応としてはじまる事も多くあります。まず5つの基本的ケア、清潔や排泄ケアの不足はないか、食事や水分の補給がちゃんとできているか、日中の活動量、活動と休息のバランスなどアクティビティは適切か考えます。また、職員の態度が悪ければ簡単に興奮したり歩き出したりします。認知症が重くなれば、利用者の反応は、「心地よいか、良くないか」「自分はここにいていいのか、いけないか」など単純化されています。利用者の様子をよく観察し、快適なサービスや環境を提供できているか、振り返ってみる事が必要です。

◆危険防止対策と紛争防止策

原因や目的を把握、利用者の状況を理解し不快・不安に対するケアを行う事で事故のリスクが軽減されます。それと同時により事故防止策として、見守り・注視の為の工夫、転倒の原因となる物品を片づけ、歩行しやすい環境を作る事も大切です。また、どういう対応策をとっても、一人の利用者をずっと24時間注視し全ての事故を防止するのは不可能ですから、身体拘束をしない意義や、どういうアセスメントをし、どんな危険があるかを考え、それにどういうケアや対応を立てているか、利用者・ご家族に丁寧に説明して意見も聞いて参考にします。そういうコミュニケーションを日常細かくとることがお互いの理解を深め不要な紛争を予防します。

④質疑応答

瀬戸市市役所 高齢福祉課様

- 身体拘束の事案はありますか？
→施設として身体拘束は禁止にしているため事案はありません。

やすらぎ地域包括支援センター様

- 喫茶店はどこの喫茶店に行きましたか？
→市民公園の近郊の喫茶店に行きました。
- スピーチロックは難しいですね。
→ふとした時に出がちですが、会議や申し送り時、その時々で職員同士が指摘し合いスピーチロックの予防に努めています。

⑤次回開催日

2024年 4月 23日（火） 14:00～